

## 名寄市との出会いと 地域おこし協力隊としての歩み



門田 澄佳 (かどた すみか)

1995年12月6日生まれ、北海道旭川市出身。大学卒業後、地元ローカルテレビ局にて5年間アナウンサーや映像制作に携わる。その後札幌へ移住し、東京IT企業が展開する新規珈琲事業に従事。カフェ運営やマネジメント、バリスタ業務など幅広く経験。2025年4月から名寄市地域おこし協力隊として観光振興支援員に着任。声と映像・飲食の経験を活かし、地域の魅力発信や、商品開発などを通じた地域活性化に意欲を持って活動している。

### 【名寄市に来るまでの私の経歴】

私は旭川市出身で、27歳まで旭川で生活してきました。大学は北海道教育大学旭川校に進学し、生活に直結する教科で魅力的だった家庭科教育専攻に所属します。大学で一番頑張った卒論ではアントシアニンなどの抗酸化活性に関わる実験を毎日行い、学外での論文発表にも挑戦しました。卒業後は地元のローカルテレビ局に就職し、番組制作部に所属します。アナウンサーとしての「伝える」業務と、ディレクター・カメラマンとしての「創る」業務の両輪を担うこととなりました。取材を通じて数え切れないほどの人々と出会い、それぞれの人生や地域に触れる中で、私が最も大切にしていたのは「物事の本質を見極める」ことです。表面的な情報だけでなく、その裏側にある熱意や苦労、そして物事の本質をどうすれば視聴者の心に届けられるか。この時に培った「多角的な視点」と「情報を形にする力」が、私の核となっています。

その後、自身の可能性を広げるために札幌へ移住し、飲食業界という全く異なるフィールドに飛び込みまし

た。約2年間、コーヒー事業を軸に、豆の卸売営業からカフェ2店舗の新規立ち上げ業務、実務、運営管理まで、経営の最前線を経験しました。それまでは「伝える側」だった私が、サービスを「提供する側」に回ったことで、事業を継続させる難しさと喜び、そしてマネジメントの重要性を身をもって学びました。

### 【名寄市に移住した理由と印象】

名寄市に来た理由を一言で表すと「縁・勢い・タイミング」だと感じています。札幌での仕事に一区切りをつけようと考えていた時期に、知人を通じて地域おこし協力隊の募集を知りました。当初はワイン特区活用隊員の募集でしたが、実際に話を伺う中で、自身のイメージとの違いを正直に伝えたところ、観光振興支援員という形での活動を紹介していただきました。また、日本最北のワイナリーがある名寄市や、ワイン文化への関心も、移住を考える大きなきっかけでした。それ以上に心を動かされたのは、初めて名寄市を訪れた際に感じた「人の温かさ」です。都市部でのスピード感ある生活の中で、いつの間にか自分自身の心に余裕がなくなっていたことに気づかされました。名寄市では人と人の距離が近く、自然と心にゆとりが生まれる感覚があり、その環境が自分らしく働き、地域に向き合う決断につながったと感じています。名寄市の広大な景色と、そこに住む方々の穏やかな優しさに触れたとき、「ここでなら、自分らしく地域と向き合い、新たな価値を生み出せる」と感じました。

### 【地域とつながるイベント企画】

着任後は、地域の方々と直接つながる場を大切に、イベント企画に取り組んできました。4月には交流を目的としたイベントを開催し、市長をはじめ多くの方にご参加いただき、さらに翌月には、札幌時代に培ったスキルを活かし、コーヒーを通じた交流イベントを企画。一杯のコーヒーが会話を弾ませ、世代を超えた人々が自然と笑顔でつながっていく様子を見て、私がこれまで歩んできたバラバラの経験が、名寄市という地で一つの線につながり始めたのを感じ、大きなやりがいを得ることができました。

## 【出店を通じた地域活性化】

名寄市の象徴とも言える「ひまわり祭り」。この大きな舞台上、私はキッチンカーでの出店に挑戦し、単に飲食物を販売するだけでなく、「名寄市の魅力を詰め込んだ体験」を提供することにこだわりました。

看板商品は、名寄産の甘いスイートコーンをふんだんに使ったオリジナルメニュー。商品開発から、目を引くポップのデザイン、店舗の装飾まで、これまでの制作経験を総動員して形にしました。また、イベントをその場だけで終わらせないよう、市内約15店舗の飲食店様にご協力いただき、会場から市内の店舗へと足を運んでもらうための回遊クーポンを作成しました。この取り組みを通じて、多くの事業者の方々と深く関わることができ、一人の力では成し遂げられないことも、地域の皆さんの支えがあれば実現できるのだと、深い感謝とともに学ぶことができました。



ひまわり祭り出店

## 【司会・映像制作による発信】

現在は、アナウンサー時代の経験をフル活用し、市内のイベント司会やレポート業務にも奔走しています。ステージの上から見る市民の皆さんの熱気や笑顔は、私にとって何よりの原動力です。また、映像制作スキルを活かしたSNS発信にも力を入れています。洗練されたプロモーションビデオもすてきですが、私が大切にしているのは、そこに住む人の「リアルな声」や「飾らない表情」です。スマホ一つで世界とつながる



レポート風景

時代だからこそ、名寄市の日常や、職人たちの熱い想いを切り取り、より身近に、より深く感じてもらえるようなコンテンツ制作を心がけています。

## 【名寄市の外へ向けた挑戦】

名寄市の魅力を「外」へつなぐための活動も開始しています。11月には市外のイベントに登壇し、名寄市での活動や挑戦を発信しました。名寄市について話することで、名寄市のポテンシャルの高さを再認識しています。また、協力隊任期終了後の自立を見据え、12月には「創業塾」にも参加しました。これまでの感覚的な活動に加え、財務知識や持続可能な事業計画の策定など、経営者としての視点を改めて磨いています。地域を盛り上げるためには、一過性のブームではなく、経済としてもしっかりと自立したモデルを構築する必要があると考えているからです。

## 【これからの展望】

名寄市には、まだまだ知られていない素晴らしい資源が眠っています。それは特産品といった「モノ」だけでなく、そこに生きる「人」の魅力です。しかし、その魅力を効果的に外部へ届けるためのリソースやノウハウがまだまだ不足しているという、地域ならではの課題も感じています。

映像制作やデジタルマーケティングを軸とした名寄市の広報を支える者として、地域の方々と共に歩いていくことで、これまでの人生で培ってきた「伝えること」を名寄市に還元し、街がより一層活性化するためのお手伝いをしていきたいです。縁あって辿り着いたこの名寄市で、これからも勢いを止めることなく、地域と共に成長し続けていきたいです。



地域の方たちと初主催イベント記念として